

令和4年度西成区区政会議 第2回情報発信部会 会議録

- 1 開催日時 令和4年7月27日（水） 14時から15時まで
- 2 開催場所 西成永信防災会館
- 3 出席者の氏名
 - 【区政会議委員】
越村 市二（委員）、坂本 時雄（委員）、菅谷 恵津子（委員）、福山 修（委員）、村井 康夫（委員）
 - 【市会議員】
花岡 美也（議員）、山口 悟朗（議員）
 - 【西成区役所】
臣永 正廣（区長）、柏木 勇人（副区長）、薦田 昌弘（保健福祉担当部長）、三代 満（総務課長）、柏木 眞里子（総合企画課長）、田中 登美子（市民協働課長）、古田 順正（地域支援担当課長）、木内 剛（総務課長代理）
- 4 委員に意見を求めた事項
 - (1) 令和4年度西成区運営方針の取組みについて
 - (2) 身近なテーマでの議論について
- 5 議事内容

木内：こんにちは。それでは定刻となりましたので、ただ今より令和4年度西成区区政会議第2回情報発信部会を開催させていただきます。

本日ご出席の皆さまにおかれましては、お忙しい中ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

私は、本日の司会を務めます、西成区役所総務課の木内と申します。よろしくお願いいたします。

それではまず、会議に先立ちまして事前に送付させていただいております会議資料の確認をさせていただきます。まず1枚目、令和4年度西成区区政会議第2回情報発信部会と書かれましたA4縦のほうになってございます。次に、情報発信部会の委員と職員の名簿。次に、資料1、令和4年度運営方針説明用資料。続きまして、資料2としまして、議論のテーマについてという資料でございます。最後に、意見票となっております。以上でございます。

ますが、不足等がございましたら挙手の方をお願いしたいと思います。

それでは、確認事項を何点か申し上げさせていただきます。

本日の会議につきましては、条例で定める委員定数の 2 分の 1 以上の委員のご出席をいただいております。開催の要件を満たしていることを、ここにご報告させていただきます。また、この会議は公開となっておりますのでご了承のほど、よろしくお願いいたします。なお、本日は報道機関の取材はございません。会議中、ご発言いただく際は、なるべくゆっくりはっきりとお話しいただきますようご協力をお願いいたします。

確認事項につきましては以上でございます。

それでは、開会にあたりまして臣永西成区長よりごあいさつを申し上げます。

臣永：本日は、令和 4 年度第 2 回の西成区区政会議情報発信部会ということで、大変暑い中、またコロナも広がっている中にもかかわらず皆さまお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

委員の皆さま、そして西成区選出の市会議員の皆さまにおかれましては、大変お忙しい中ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また日ごろより地域のためにご尽力いただいておりますことを、この場をお借りして感謝を申し上げます。

本日は、今年度 2 回目の情報発信部会ということで、令和 4 年度の西成区運営方針の取組みについてご説明させていただきます。委員の皆さまに忌憚（きたん）のないご意見をいただきたいと思っております。また、今回は初の試みといたしまして、委員の皆さまに選んでいただきました身近なテーマで議論を行っていただきます。活発な議論になるよう、どうぞよろしくお願いいたします。

そして本日は、部会終了後にフィールドワークといたしまして、こちらの西成永信防災会館の防災の取組みは非常に自主的な、自分たちのまちを自分たちで守るという、そういう取組みについてお聞きいただく予定でございます。フィールドワークの内容につきましても、今後の活動に生かしていただければと思います。

それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

木内：それでは次に、委員の方々をご紹介させていただきます。配付しております名簿をご覧ください。越村委員でございます。

越村：どうぞよろしくお願いいたします。

木内：坂本委員でございます。

坂本：坂本です。どうぞよろしくお願いいたします。

木内：菅谷委員でございます。

菅谷：菅谷です。どうぞよろしくお願いいたします。

木内：福山委員でございます。

福山：福山です。どうぞよろしくお願いいたします。

木内：村井委員でございます。

村井：村井でございます。よろしくお願いいたします。

木内：本日、伊藤委員、橋本委員におかれましては、ご都合などでご多忙のためご欠席されております。

続きまして、本日オブザーバーといたしましてご出席をいただいております市会議員の方々をご紹介します。花岡議員でございます。

花岡：花岡です。よろしくお願いいたします。

木内：山口議員でございます。

山口：山口です。よろしくお願いいたします。

木内：それでは次に、区役所職員のご紹介でございますが、職員につきましては配付しております名簿でご確認のほど、よろしくお願いいたします。

それでは早速でございますが、議事進行につきまして議長にお任せさせていただきます。村井議長、よろしくお願いいたします。

村井：ありがとうございます。議長を務めさせていただきます村井でございます。よろしく進行のほう、ご協力いただきますようお願いいたします。

では、始めるにあたりまして段取りから言いますと、通例ですと事務局のほうからいただいた提出資料のご説明等をいただくところでございます。きょうは少しフリートーク、いろんな各委員のご意見とかがあるかと思えます。その辺の発言等を重視して進めさせていただきたいと思えますので、よろしくお願いいたします。

ただ、むやみに何か発言をしてくれと言いましてもなかなかできないところもあるかと思えますので、まずは少し区役所、事務局のほうからの提出資料から提案をいただきまして、それに関して新しい質問をさせていただきたいなと思えます。

ただ、もしどうしても会議というのは話の流れみたいなのがあって、それを読まないと言言ができないという部分も意識的に出てきます。そういうことも今回は意識されないように、もし話の途中であったとしても自分自身がこれはという思うご意見の発言がありましたら、ご発言をいただければというようなことでよろしくお願いいたします。

まずは事務局のほうから資料のご説明をいただければと思えます。よろしくお願いいたします。

三代：では、委員長よろしいでしょうか。

村井：はい。

三代：いつもお世話になっております、総務課長の三代でございます。私のほうから、議題1、令和4年度西成区運営方針の取組みについてご説明をさせていただきます。すみません、座らせていただきます。

それでは、資料1「令和4年度西成区運営方針の取組みについて」をご覧くださいませでしょうか。なお、私の説明につきましては、この資料の真ん中と一番下、右側に小さい番号が入っておるかと思えます。この番号で紹介をさせていただきますので、ご了承のほどよろしくお願いいたします。

それでは早速読み上げますけれども、資料1の1枚目の資料の下側、2番の番号が入って

おります、令和 4 年度西成区運営方針となつてございますところの資料をご覧いただけますでしょうか。

ここでは西成区の目標、運営方針です。目標、使命、および運営の基本的な考え方と掲載をさせていただきます。目標は昨年度と同様、「すべては子どもたちのために」をキャッチフレーズに、未来を担う子どもたちが健やかに育ち、誰もが笑顔にあふれ、安心安全に暮らすことができるまちの実現を目指すとしていただいております。

また、使命、運営の基本的な考え方につきましても、ご覧の内容となっております。

令和 4 年度におきましても、未来を担う子どもたちを中心に地域の皆さまが安心安全に暮らすことができるよう、さまざまな取組みを進めていくこととしております。

次に、1 枚めくっていただきまして 2 ページ目の、番号でいきますと 3 番上側の重点的に取り組む主な経営課題でございます。こちらは令和 4 年度の運営方針につきまして、左側から経営課題、戦略、具体的な取組み、そして一番右側が区政会議における担当の部会を一覧にしたものでございます。

情報発信部会が担当する具体的取組は、一番右側でいきますと、西成区の魅力発信事業と新今宮エリアブランド向上事業というのが、特区構想部会と情報発信部会が一緒、2 つ共通になりますけれども、その 2 つと、その下の地域コミュニティー、また緑化推進です。ちょっと飛ばしましてその下、人権尊重のまちづくりから、空き家対策推進事業までの 10 項目の取組みが、情報発信部会の担当ということとなっているということでございます。

このあと、以下の 4 番からの資料のほうで、この具体的取組ごとに令和 2 年度の決算額、それから令和 3 年、4 年度の予算額、目標値、今年度の取組み内容を一つ一つ掲載をさせていただきます。

本日は時間の都合もございまして、その中から幾つかご紹介をさせていただければと思います。

まず、そうしましたら 1 枚開くんですが、資料でいくと 5 番です。5 番の新今宮エリアブランド向上事業のご紹介をさせていただきます。この事業でございますけれども、4 年度のところにもございます、取組み内容にもございますように、民間事業者との連携のもと、大阪ミナミの新たな玄関口として、「新今宮エリア」の歴史・文化・にぎわい等の魅力を発信し、「新今宮エリア」のブランディングを図っていくものでございます。

この事業は、今年度で当初予定しておりました事業期間は 3 年目を迎えておりまして、今後民間による自走化に向けプラットフォームの構築等に取り組むこととしております。

次に 1 枚めくっていただきまして、番号で 9 番の地域防災活動事業。地区防災計画を活用した地域防災力の向上でございます。この事業は、日ごろから地域住民がつながり支え合うとともに、区民の防災意識が高く、災害に対する備えができている状態を目指し、今年度の取組み内容にもございますようなワークショップや防災訓練等を行い、地域コミュニティーにおける共助の意識の醸成を図り、地域防災力を高めていくこととしております。

また、これまでに策定いたしました西成区内全 16 チームの地域防災計画の更新も着実に

進めてまいることとしております。

以上、2つの取組みについてご説明をさせていただきましたが、もともとの8つの具体的取組におきましても、目標達成を含め、区民の皆さまと一緒に進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いをいたします。

甚だ簡単ではございますが、令和4年度西成区運営方針の取組みについてご説明をさせていただきました。ありがとうございました。

村井：ありがとうございました。ただ今の、この資料に従いまして説明をいただきました。これにつきまして何かご意見がございますれば、ご発言をいただきたいと存じ上げます。

先に議長のほうから。申し訳ないですけれども。きょう、皆さんにここに来ていただいたことに関わると思うんですが、課題の2つ目に説明が記載してありますが、新今宮エリアの魅力開発。まさにここが隣接した場所だと。ひょっとして商店街の中を歩いてきていただいたことだと思うんです。一般的な商店街の状況とは非常に変わっております。すなわちカラオケ居酒屋というものが非常にたくさん出ておまして、まさに飲食店を中心とした商店街になっております。

これは余計な時間を使いますけれども、今から10年か20年前ぐらいのことを、この地域の商店街の状況を考えますと全く違うようになってきております。もともこの地域は、地域の住民の方々の消費対応ということでできました。幅広いお店の構成があった場所がありました。ところが、ここ数年の中で全くそれが色変わりをした。

そのことがええか悪いかということではなく、実際にそうならざるを得ないことももちろんあります。さらに新世界の変化。新世界が今のように観光地として再復活をされた。そのことを生んだ要因というのは、外からの若い観光客がたくさんお入りになられて商店街の客層が全く変わった。今までは労働者、労務者の方々を中心としたお客さんが、若い方々を中心とした。その方々が実際に今、うちの商店街のバーなんかで入ってきていただいています。ですからイメージが全く変わってきたと思います。

だからこそ、話を中心部に戻しますが、新今宮エリアは非常に重要な課題がある。そこへ、実は西成だけではなく、新今宮の開発というのは、当然、西成区のほうで考えておりますが、浪速区の連携ということが非常に大きな課題だと思っています。その辺の進捗(しんちよく)がどうであるのかということ、少しお聞かせを願えたらと思っています。

実は、こういう活用をしますのは、大阪市の商店街連合の女性部が、星野リゾートさんに一遍研修をさせていただきたいという申し込みをしました。ご依頼をして、向こうで食事をさせていただいて、そのときに星野リゾートさんのコンセプトなどのご説明をいただければということでご依頼をしたんです。残念ながら、ホテルにお断りをされました。そういう点で、星野さんのほうの関連のスタンスというのを、実は研修に対する対応も去ることながら、食事をする上でプランの予約をさせていただけたらというふうにお願いはしたんですが、このレストランの方針で予約を取らないという方針がありまして、実際に予約をさせていただきませんでした。そのときにお越しいただければ、参加人数はそんなに膨大でなけれ

ば十分にその場で対応させていただきますというふうなご返事でした。それも非常に細かい話なんですけれども。

とは言うものの、どうも星野さんの対応というのは、あまりそういうふうなことに對して、地域の団体等に対する要望に對して、あまり積極的ではないなという実感をさせられたと。区役所のほうも確か、星野さんのところのアクセスをもっていただいたので、その辺も含めて、どんなふうな状況なんかなというのを、もしちょっとご報告いただくことがあるなら、ちょっとお話をいただけたらと思っています。以上です。

柏木（眞）：総合企画課の柏木でございます。

ご質問がありました件につきましては、前回はそういった内容のご質問があったかと記憶しているところでございます。その際には、今現在、直接的な連携ということはございませんが、ある程度ということで、今後連携していきながら新今宮のエリア事業を進めていきたいというふうにご説明させていただいたところなんです。

と申しますのも、今現在、新今宮エリアブランドにつきましては、先ほど説明がありましたように自走化に向けて今事業を進め、構築しているところでございまして。事業の中身としましては、例えば、町歩きをスタディツアーということで新今宮の南側だけではなくて北側、浪速区さんも含めたエリアで、そういうスタディツアーというのを企画しておりまして、今はそれにつきまして中身についてブラッシュアップしているところなんです。そのツアーにつきましては、地域の方を含めまして、今現在、スタディツアーのガイドの養成をやっているところでございまして。そういった方たちが来年度、自分たちで収入を得て、ツアーを皆さまに、通常のツアーと違って、やっぱり新今宮というのはにぎわいの新今宮のブランド部分でありますとか、昔からの歴史、労働者のまちであった部分でありますとか、古くから歴史のある地形のまち、いろいろなまちがございまして、そういったところを知ってもらって、もしくは勉強していただきながらツアーをすると。

そういうことで、今、コロナ禍でそれもできなくなっていますが、今後、にぎわいが回復してくるにあたりまして、そういったツアーの要望とかも増えてまいると思いますし。現に、星野リゾートさんも独自のツアーなんかもやっているみたいでございまして。そういったところと連携しながら、ツアーを確立した上では、星野さんにも区としまして、そういった浪速区とも連携しながら、いろいろツアーもございましてご利用をというふうなご案内はしようかなというふうには思っているところでございます。

村井：ありがとうございます。具体的な企画としては、そういうふうな町歩きという企画を進めてみたいという話で。

星野さんのほうと何か関わりみたいなものは、どんなもんやと考えられますか。

柏木（眞）：具体にはまだ全然関わりがありません。

村井：これとってあまりない。分かりました。

三代：星野さんが当初ここを建てるとなったときに、まだ工事をしている時とかは、今、柏木課長も申し上げましたけれども、星野さんの皆さまもご存じの OMO7 ということで、そ

ういった地域のツアー的なものを星野さんが宿泊者に紹介するような、そういうコンセプトで聞いております。そんな中で、どういうツアーを組んでいるかということで、浪速区さんのほうも西成区のほうも、もうちょっとあつて。

ご存じのように新今宮小学校にしょっちゅう行かれて、小学校のほうでは授業なんかでも星野の方が来ていただいて、子どもに西成区のいいところを教えてみたい授業をされたということも聞いてもおります。実際に新聞とかでも取り上げられたというふうには記憶しておりますけれども。

そういう意味では、今、まだできたばかりであれですけれども、そういった星野さんのほうでも、この界限のそういったツアーというふうなものでは、後ほど西成区のほうも視野を入れて、まだ今、どういうのがいいだろうということを検討されているところではないのかなと。すみません、そんなに具体的に今、星野さんと話をしているわけではないですけれども。ではないかなというふうには考えておりますし、逆に今、このエリアブランド向上事業の中で実際にツアーをわれわれがやっていく中で、星野さんのほうから、「そういうのをぜひ一緒にしてほしい」みたいに言ってもらえるようになればいいなと思います。

村井：分かりました。あんまり僕も、ここでばかり時間を使いたくないのであれなんですけれども。ただ、やっぱり見ていると、星野さんはお客さんを連れて相当に町歩きをやってはります。よく見ます。だから、いつでもできる。

実は西成のほうにあんまり入っていただいている状況はない。だから、なんとか星野さんに西成のほうの町歩き等による地域アピールを、ぜひ進めていきたい。よろしく願います。

すみません、ちょっと余分なこっちの話ばかりで申し訳ないです。何か、これ以外、他のことでご意見をいただけましたら。

坂本：すみません。前回もちょうと意見を述べたんですけれども、マスコミに対するキーワードというか、こういう人権研修みたいなのところも含めて、うまく PR できないのかなと思うのですけれども。

たまたま、かなり古い資料なんですけれども、シンポジウムの資料がありまして、マスコミと人権ということで、浪速区のシンポジウムがありました。これをちょっとお渡ししておきますので、議会の答弁の参考にちょっと読んでいただけたら。西成区のイメージアップにもつながるようにお願いしたいなと思います。

そういったところの今回のこの事業の中の人権尊重のまちづくりというようなところにおいて、また、こういうところもいろいろしていただけたらなというような気もしますので。以上です。

村井：今おっしゃったように 1 つ目、研修の事例を示していただいたと。そういう意味では、区としてそういう研修活動みたいな具体的にはどういうふう考えていはる。

三代：マスコミに対してというところですか。以前に、ちょうど私が西成区に 3 年ぐらい前ですかね。今の総務課長の前に総合企画担当課長として来させていただいた時に、マスコミ

がやはり西成区のイメージと言いますか、昔のような状況、イメージを強く発信する、具体的にどういう記事かは忘れまして申し訳ないんですけども。というところで、西成特区構想の有識者の先生方の意見ということで、「そうじゃないよ」と、そういう歴史のそれも踏まえて、今、西成は変わろうとしているんだというようなことで、その誤った意見と言いますか、は違うだろうということを見てほしいというような、有識者の見解というようなことで、大阪市政記者クラブに対して、そういったことを言いに行ったことはございます。

ただ、それはインタビューした記事が発端やったとは思うんですけども、すみません、具体的には今ありませんが、そういったことをしたのはございますけれども。それを研究や研修というところで、マスコミに対してというのは、なかなかちょっと、これは他の部署でもマスコミに対する研修というのはされていないのかなと思います。確かに大事なことだなとは思っています。

田中：私も去年、総合企画担当課長をやっているんですけど、新今宮エリアブランド等で西成区のイメージを変えようとしていっているさなかに、星野リゾートさんがオープンしますからという取材依頼が来たりとかするんですけども、そこを対比をしたいとたぶん考えられるんですけども、やはり西成が今良くしていこうというところを理解していただいて、対比のコントラストを弱めると言いますか、ご理解いただいた上で表現いただくことと思います。

柏木（眞）：それから、つい最近も取材等のお申し込み等があったと聞いておりまして、その際にはかなり西成区のいいことを発信するというのであれば積極的にこちらのほうも取組みますというお話はさせていただいたりはしております。

ですから区としましては、かなり西成区のいいイメージを積極的に情報発信、今回のテーマでもございますが、そういったことをやって、かなり皆さんが思われる区のイメージを変えていきたいというふうには考えております。

村井：そうですね。ここが大部分の問題なんでしょうけど。ただ、話を後ろに下げってしまうようなことで申し訳ないんですが、今後、はっきりしてもらうように、労働者ありという部分もイメージがある西成区。それと今おっしゃっていただいた人権という部分との相互性というか、そこがちょっと、むしろわれわれにしたら人権うんぬんということよりも、あらゆる労働者、汚い町というイメージが、基本的な西成区のイメージにつながっている話で、そこに本当に人権の意識というのが明確に伝わっているかどうかです。むしろ、もうひとつよく分からないんですけども。つまり、人権というものを捉えたときには、もっと広い意味での人権という話になってくるので、あいりんが抱えていた労働者の生活の問題であるとか、それからいろんなやくざとかそんな関連の地域的な特殊性というものは、ちゃんと人権というものの意識の中で持って研修がされているのかどうかというのは、その辺はどうするのかな。

越村：人権ばかり言うているけれども、今宮エリアというのは、星野リゾートがなんやかんや言うているけれども、星野リゾートは浪速区なんです。見てもうたら分かるように、浪

速区の南海電車で浪速区、JR、それだけの幅があるんですね。西成に来ます？ 僕は来ないと思います。あれが塀になってる。あそこからこっちに来ようと思ったら、動物園前の商店街のあの道しかない。

でも、通天閣がかなり新世界が良くなっているんですけども、ガイドさん、バスで結構来るんです。なんて言うか知ってますか？ここから先には行かないでって。その意味をそのガイドに聞いたかったんです。「それ、どういう意味ですか」って。自分はある側から来ましたよって。ちょっともめたら具合が悪いから言えなかったんやけどね。やっぱり今、西成をどうかいうのは、自分は、せやけれども、西成に来るメリットありますか。ないでしょう。新世界やったらまだ通天閣と串カツがある、これでまだ通るんです。西成区にないんですよ、悲しいことに。

だから、それをしようと思ったら、いちいち言わなくても、自分のところに何かもの1つできたら、放っておいてもメディアが来ます。メディアというのは、あんまりややかしいか、ええか、どっちかしか来ないんです。中途半端なのは来ないです。せやから、暴動あったら絶対来ますわ。違います？

村井：もちろんそう。

越村：絶対に来ます。せやから何も言わなくても来るんです。来てくれ言わなくても。だから、ここにもしも何かものできたら、絶対に来ます。だから、僕は星野リゾートは浪速区やから、それを基本にして西成区のあいりんをどうしたらええか、天下茶屋のあそこをどうしたらええかということを僕は考えておいてもいいんじゃないかなと、僕はそう思います。

せやけれども、あんまりよその地域にそんなこと言えないです。例えば、こうしろ、ああしろということは言えないです。だから、この場やったら西成区をどうしたらええか、どうしたらメディアに、どうしたらみんなを呼ぶことを考えて、何をしたらいいか、それを基本に考えるようにしたらいい、僕は西成区に住んでいる人間やから、やっぱりどうしたらええかいうのをやっぱり自分らで考えている。金がかかる。金はかかるけれども、一般の人が来てもらうのに中途半端な金では無理なんです。大手業者、星野みたいなのがバーンと入ってやったらできる場所というのは、私どもはあるんです。

やっぱりもうちょっと、組織大きく、これをしてほしい。星野さんの中は予約を取れへん。予約がなかったら入れない。行って、喫茶店のほうは入らせてくれるんです。せやけれども、レストランへ行こうと思ったら予約なしだと予約取れと。全然違うんですよ、言うてることが。僕も1回行きたいなと思うけれども、やっぱりそういうのを聞いているから気分が悪いんです。別に西成にはおいしいところがいっぱいあります。ただ、規模が小さいから入れないんです。

村井：ありがとうございます。

福山：あんまり前回の会議では発言しなかったんですけども、副議長という立場と立ち位置でお話ししたらいいかと思って、きょう、こちらは私は初めて来させていただいたんですけども、大阪フィルハーモニー交響楽団は皆さん知っていただいているかと思いますけ

れども、大フィル会館を作っていただきまして、それで31年。私は大フィル会館ができた31年前に入団しまして、31年させていただいているんですけれども。

私ごとで恐縮なんですけれども、35年前ぐらいに今はちょっとたぶんコロナで止まっていると思いますけれども、三角公園というところでたそがれコンサート、淀川工科高校さんがやられたんですけれども、その前は大阪府音楽団という、いわゆる日本センチュリーというオーケストラがあるんですけれども、その前身の大阪府の吹奏楽団が、ずっと三角公園でたそがれコンサートをやっていたんですけれども。そのときに私はまだ楽器を吹いていまして、毎年、三角公園で演奏をさせていただいたんです。すごい怖いイメージがあつて。もう35年か40年ぐらいなので、僕も20代前半ぐらいでした。

服部緑地の楽団の練習場から貸し切りバスで、とにかく男性だけじゃないと危ないから男性だけのメンバーで、貸し切りバスで三角公園まで走って、私服の警官の皆さんに囲まれて、ステージで演奏させていただいて。演奏中もいろんな方がいらっしやつて、すごく怖いイメージがありましたけれども。やっぱり31年前の大フィル会館をこちらでさせていただいたのは、西成区の一助にならせていただければということがあつてだったかと思うんですけれども。なかなかクラシックオーケストラというのが、地元の方にまだそんなに認知されていない。31年で、これも手前みそですけれども、4年前の2018年から西成区さんのおかげで、西成の全小中学校に2年かけて9校、学校の体育館で演奏することを続けさせていただいております。今年が5年目ですから、3クール目に入ります。

そういうものをたぶんご存じない方が多くて、お子さんの子育て支援というところの一助になっています。本当はオーケストラをバーンと迫力あるもので皆さんに聴いていただいて、理屈抜きでいろんな方に見ていただきたいなという、ちょっとした思いもあります。

通天閣でも、あそこが100周年ができたときに、社長と仲良くさせていただいて、「なんかやってくれませんか」って、「新世界で『新世界』をやりましょうか」ってベタですけれども、一番上のビリケンさんの横で4人ぐらい連れていきまして『新世界』をやらせていただいたり。実はいろいろやってるんです。クラシックは固いと思われましてけれども、いろいろなやり方で、いろんな場所でさせていただけますし、あいりん会館でさせていただいたことも。こういう場所でもできますから。そういうことで、西成発祥のものではないですけれども、ゆかりがあつてさせていただくような機会がありますので、うまいことつなげて、クラシックだけでは駄目だけれども、何かと何かは、これはこういうことができるまちなんやなというふうにつながっていただけたら、大変うれしいなと。

越村：費用が、かかる費用。それがなんぼか。

福山：費用、そうですね。人件費が……。

越村：何をするのもね、やっぱりね。ほな、こうやってしようかと言うても、ほんなら3万、5万ぐらいでええかって言うたら、違う、1人1万円とか2万5,000円とかいろんなんがありますやんか。値段的なもん、1人なんぼとか、1時間何人で頼むか。そういうのはちょっと分かればね、ありがたい話。せやから、そういうことでやっぱりちょっと、そういうのを

これからしてもうて、いろんなことをしてもうたら、もっともっとアピールになると思うんですよね。

福山：そうですね。うちも民間のプロのオーケストラなんです。西日本で一番古い今年 75 周年のオーケストラなんです。そういうのも多分ご存じでない方も多いと思うんですけれども、一応、日本を代表するオーケストラというふうに言っていたらいい。私もたびたび東京の文化庁へ行くんですけれども、やっぱり日本にいっぱいそういう団体があるんですけれども、皆さん、地域貢献、社会貢献ということが一番言われていました。「大フィルは何をしていますか」という話に当然なるわけです。

どうしても立派な日本の芸術文化をけん引するという立派な題目もあるし、それがわれわれのミッションなんですけれども、一方でオーケストラなんかいるんかとお金持ちの道楽ちゃうかって、一般には言われている。そうじゃない、誰でも楽しめるものになるというか、クラシックとか演歌とかないんですよ。オーケストラはなんでも演奏できる団体なので。だから、一個一個のギャランティーというのは当然われわれの生活の糧になって大事なんですけれども、それだけじゃなくて、そこでやった貢献が西成のものじゃなくても、他からそれを文化庁とかでもいいです。ということで、われわれ大阪フィルは公益社団法人でやらせていただいていますから。非営利集団ですから。そういう意味では、稼ぎ方というか、お金の使い方というのはいろいろ考えられるというふうに思いますので。うまく内容、やり方によれば、メディアと、通天閣でやった時も、それは面白いからやろうかってメディアが来てくれて。有線で流してくれました。

越村：やっぱりそういう機会がやっぱり要るんです。

福山：別にベートーベンやったあとに美空ひばりやったりもしているでしょう。同じ演奏会で。だから、なんやら、そういうその垣根のなくなるということはやれますのでね。だから、われわれの努力も続けているので。

村井：越村さん、よろしい？ ありがとうございます。

三代：私のほうから言うのもなんですけれども、ちょうど本当に次のテーマ、西成区の魅力発信についてということで、今、もう既に皆さんからいろいろなご意見が出てきているのかなというところですので、もうあれでしたら、このままこっちのほうも。

村井：資料の中。

三代：そうですね、資料の説明をさせていただいたら。いいですか。

柏木(眞)：総務課の柏木でございます。私のほうから資料のご説明をさせていただきます。着座させていただきます。

前回、皆さま方からアンケートをいただきまして、その集計の結果、西成区の魅力発信についてという回答が多かったということで、今回のテーマとさせていただきます。

西成区役所では、区民の皆さまへ区政、市政に関する事業施策等や、地域に密着した生活情報の他、西成区の魅力、歴史でありますとか文化、観光、イベント情報も、広報紙やホームページ、SNS を活用して広く情報発信しております。

特に市民生活に必要な情報は、広報紙やポスター、チラシ、町会の回覧等によりお知らせしておりますが、紙面には限りがあること。また、より多くの情報やタイムリーな情報につきましては、ホームページや SNS で発信しています。

国や大阪市の方針でも市民の生活 QOL には ICT を活用していることとされております。今回のテーマは西成区の魅力発信についてでございますが、その点を踏まえまして忌憚（きたん）なくご意見をいただければ幸いですと思っております。

今回、そちらのほうの資料 3 にございますテーマのうち、1 点目、取組みの区民への PR について、特に西成区のイメージアップにつながる情報発信とはどういったものか、西成区の魅力として歴史・文化・観光、イベント情報などは何かというのと、2 点目としまして、西成区の魅力について、どの広報媒体でどのように発信していけば良いか。1 つ目は、区民向けの情報発信について。2 つ目としまして、区外の方への情報発信についてということで、参考に下に記載しておりますのは、西成区役所での主な広報媒体ということで記載のほうをさせていただきます。

以上でございます。

村井：ありがとうございました。ポイントが違うかも分からん、資料の 4 ページ目のところの魅力マップの作成 6500 というのは、魅力マップってこの資料には出ていないですね。プリントアウトしたやつ。

柏木（眞）：ものづくりマップというのがそうなんですけれども。前回お渡しいただいております資料 2 が右から 2 番目、西成ものづくりマップ。

村井：今回の中には付いていない？ 付いているの？ 付いている付いていないのを。これは、作成案か。これからの予定なんか。でき上がっている分じゃないの？

柏木（眞）：そうです。それが今年度作成予定ということです。

村井：変な言い方やけど、どんなふうな形で作ろうとしているんですが。

柏木（眞）：今まで、検討段階ではございますが、昨年作成させていただきました西成ものづくりマップというものが。

村井：去年何かあったんやね。

柏木（眞）：ここでございます。まだ掲載していない事業さんもございますので、その第 2 弾にするかどうかというところを、中身を検討させていただいている感じです。

村井：いいのができれば、お伝えができると思います。言うたら、宣伝チラシみたいなものですかね。西成の魅力マップですね。

柏木（眞）：逆に、今後のことも含めまして、今年度は検討中なんですけど、来年度以降、こういうものがあれば西成区の PR になるということもございましたら、それも含めましてらご意見をいただけましたらありがたいと思っております。

村井：どんなものを持っていくのかというのは非常に重要なこと。越村さんがおっしゃったように、残念ながら西成区には大きな魅力というのがちょっと見当たらないという。でも、例えばわれわれなんかやったら商店街ですよ。割と個性的な商店街があるわけですから、

その商店街をある程度ピックアップしてくれるとかということの中で、西成区の魅力というのはこういうところらへんにありますというふうなところを作り上げていてもらいたいです。

変な言い方なんですけれども、「単純に何かがあります」だけではちょっと弱いと思うので、そこでもう1つ言っちゃうけれども、その下の送ってくれた中に SNS の発信回数 12 以上と書いてくれてんやけれども。だから、むしろ回数の問題じゃなくて、1 回の SNS の発信の中にどんな訴求力があるか、もしくは組み立てる中身があるかという話で。さっきも言ったみたいに、「こんなんがありますよ」では、ちょっと魅力に欠けるんやろうなど。そこをちゃんと作文というか、ストーリーをちゃんと入れ込んで SNS を発信いただきたいというのが願いです。

ただ、それと違う方向で話を言いますと、ちゃんと中身を盛り上げたいということでしたんですけれども。同じようにこの地域の商店街の話に戻っちゃうんやけれども、今、うちの商店街にお客さんが入ってくる大きな要因というのはこうだと考える。すなわち入ってきたお客さんが、それこそ中国カラオケって入って「あれ、こんなおもしろいことさせてくれんねや」ということを写真で撮って SNS にバンバン上げよる。めちゃくちゃ、そんな西成と言うたら中国カラオケの SNS がめちゃくちゃ出てくる状況になっているんだと。それで結構、やってる事は同じであって、どの店だって、そんなに変わるわけやないわけやから。

でも、それがたくさん出てくることで、他のそれを初めてみた他の人たちは、「あれ、こんな面白いとこあんねや」という魅力を感じている。もちろん作戦なんかも分からないけれども、でもそれって非常に重要な結果を生んでいるということは事実なんです。

これは 2 つの問題があって、今言ったみたいに大変素晴らしい内容を作って、読むに耐える、見るに堪えられるものを上げるというのも大切なんですけれども、それと同時に物量で、ただし、これは物量で肝心な所っていうのは、逆にそういう意味で言うと、このたかだか 1 キロ四方ぐらいの地域の中に 150 店以上の中国カラオケが存在している。すなわち 150 種類のアイテム、同じ中国カラオケなんだけれども、一つ一つやっぱり違う。だから、そういうのをやっぱり客はちゃんと見てる。「これは面白い」と。

越村：やっぱり生活保護の人が多い、そういう人が多いですから、やっぱりその人たちはそれを楽しんでいるんです。その状態は悪くないと思うんです。

村井：はい。来はります。

越村：やっぱり 5 年ぐらい前なんですけれども、臣永区長がここに来てもらった時に、あのときに西成警察署、西成消防署で西成区をものすごい変えてもらうたんです。でも悲しいことに、変えてもろたほうの皆さんが分かっていないんですよ、全然。かなり良うなっていると思いますね、臣永区長。

村井：そこも魅力なんだと思います。

越村：だから、やっぱりそういういろんな人と、これはほんまに、ここに住んでいるから分

かるんですよ。住んでいなきゃ分からへん。西成区の中って全然治安が悪くないですよ。ただ、雰囲気的に悪いだけであって、イメージがね。でも、女の人がミニスカート履いたり、薄い服着ていても、あんなん着ていても見向きもしないです。これが西成区あいらんの最近のええところなんですよ。だから、そういうのをもっとアピールしてどうやって変えてもらえるかなと、ちょっと自分は楽しみにしています。よろしくをお願いします。

村井：僕は本当に大阪市による清掃事業ですか。あれは非常に効果があると思います。あれだけきれいにしていただいたということで、今でも覚えてるんです。簡宿さんが10年前に、お客さんにアンケートを採った。当時は中国人の観光客がめちゃくちゃ多い時期で。その中国人の観光客にアンケートを採られた。その中で一番関心を引いたのは、当時悪い評価があったんです。何かと言ったら、動物園前もしくは新今宮の駅で立ち小便をしているおっさんがいる。その小便の臭いがした。観光客は、そんなの最悪ですよ。影で隠れて立ちションするおっさんがおるか分からん、今、そこら中を見たって表通りでするおっさんは多分ない。それと、ごみも捨てない。小便の臭いもしていない。これってすごい大きな効果です。安心安全清潔、まさに観光につなげる一大要素です。それは大阪市の清掃事業、あれでずっと日に2回か3回回ってくれていはるんで。あれは絶対に効いていると思います。

越村：その人らだけでは10人ぐらい回っても一部だけなんです。こんなに広いところで10人ぐらい回っても分からん。だから、各地域でそういう清掃活動をもっとしてもらって、治安を良くしたら自分らのまちは自分らで守らんと誰も守ってくれないです。こうやってしているから、力を入れてくれるんです。警察でも、消防署でも、やったらあかんことを政府に頼んだらいいんです。行政に。

村井：ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

それでは、次の予定もあるようです。

木内：会議は会議として終了させていただいて、終了の後にフィールドワークという形です。お時間が一応、予定では3時ごろ、会議1時間、フィールドワーク1時間、3時ごろにこちらのフィールドワークを実施する予定です。

木内：いったん区政会議、1部の区政会議情報発信部会としましては今、こちらで終了とさせていただきますまして、このあと、フィールドワークのほうをさせていただきます。ありがとうございました。